１．　た・づ・な

『経験をさらなる発展へ生かして』

軽種馬育成調教センター　専務理事　**杉本　修**

本年 3 月 22 日付をもちまして、軽種馬育成調教センター専務理事に就任いたしました。就任にあたり、ご挨拶申し上げます。

私は JRA 在職時代長く育成馬事業に携わってきました。その中でも 1983 年 10 月から 2 年間アイルランドで研修を受けたことは強烈な印象となっています。初めての経験の中で、すべてが新鮮でした。技術的なことを除いて、施設では、カラ調教場の広さ、英国のニューマーケット調教場の広さと冬でも青い芝が強く印象に残っています。馬では、オブライアン調教師のサドラーズウェルズ、エルグランセニョール等の調教馬のほか、1985 年、日本ダービーを勝った後、キングジョージに挑戦したシリウスシンボリです。現地では人気はまったくなく、当日も激しく入れ込んで、汗びっしょりのレース前のテレビ映像をはっきりと覚えています。レースでも全然勝負になりませんでした。あれから 22 年、日本馬は確実にレベルアップし、海外で多くの重賞レースに勝つ様になったし、ジャパンカップでも、日本馬が優勢を示し、外国馬は昔のようなレベルの馬では勝負にならなくなってきています。これは生産、育成を含めた日本の競馬関係者全体のレベルアップの結果であり、嬉しく思います。

その研修が終わって帰国し、南国宮崎から 1986 年の 2 月に日高育成牧場に赴任した頃、日高では共同育成場ができ始めた頃で、各牧場の育成事業は緒についたところでした。その頃とは比べ様もなく育成調教技術は格段に上達し、喜ばしく思っております。

そのような強烈な印象を与えたニューマーケットの調教場をモデルにした JRA 日高育成総合施設は、冬の印象はまったく違うとはいえシーズンを通して十分な運動ができる施設であります。この施設を管理運営することがわが財団の責務であります。おかげさまで、1993 年 10 月の開場以来、順調に利用頭数は増え、1 日平均 500 頭を超えるようになりました。今後とも良好な管理運営を続け、強い馬作りに貢献できることを光栄に思っています。

「馬づくりは人づくり」として、育成調教技術者養成研修があります。開始以来約 300 名の卒業生を送り出し、過去にアイルランド人を招聘して、プログラムの基礎を築き、現在では１年間で基本的かつ実践的な騎乗技術を習得するよう教育しております。牧場では育成技術者の即戦力として評価を受けている

ものと思います。技術は経験によって上達していきます。更なる上達は各牧場の役割でありますが、われわれは常に新しい人材を育てたいと思っています。

　そのほか、当財団は、育成調教技術の調査研究と改善普及事業、牧草および草地土壌分析事業、引退名馬のけい養展示への助成事業等の事業を行っております。自分のこれまでの経験を生かしながら、新たなる気持ちで事業に臨む所存でございますので、関係者の皆様方に今後ともご指導、ご鞭撻をお願い申し上げまして、就任の挨拶とさせていただきます。